

生理学的作用を持つ自然の商品の評価の重要性

Shiming Li

食科学科、ラトガー大学、ニューブランズウィック、ニュージャージー州、アメリカ
生命科学大学、Huanggang Normal University (黄冈師範学院)、湖北省、中国

ナチュラルプロダクトは多くの国々で今まで使用されてきた治療薬が発見された豊富な資源のもとである。有効的な薬や健康促進的商品がより必要とされている観点から安全でより効果的な薬的、栄養薬的薬剤として供給できる自然産物の有効性が注目されている。しかしながら、複数の分子の抽出液は化学的に特徴付けられなければならないし充分な一貫性を保証する為にも試験管での生体活性及び動物実験での有効性において慎重に生物学的に評価されなければならない。この分野における研究はいく分不適格な化学的特徴付けや書類などの矛盾により異なる生物学的研究の中で結果比較する事を難しくさせ悩ませられてきている。近代的分析化学や分子評価方法は、現在こういった限界を避けるのに十分な透明性を保証する為にある。炎症や癌など複雑な病気への理解は、これらの自然抽出物の機序作用への重要な洞察を可能にする為に進歩してきた。ここでは抗炎症及び抗癌剤としての自然産物の価値について述べ、それらを生物学的そして化学的評価の面から再検討し、この分野へのチャレンジを強調する。自然産物による生物学的作用の将来の研究の為のテンプレートとして細胞、分子レベルから、また化学的方法による特徴づけや品質管理などに的を絞りお茶エキスと柑橘果皮エキスの2つの例を挙げている。